

祝100号 青年委員会だより

平成 20 年 7 月 1 日 (第 100 号)

(社) 青森県建築士会青森支部青年委員会

***** 歴代の編集長からのメッセージ***** 裏面に担当紙面掲載*****

「青年委員会だより」がついに 100 号を迎える事となりました。思えば平成 12 年 3 月 1 日”だより”の初版でした。初代編集長工藤淳子さんにお忙しい中、毎月作成していただきました。今まで多くの会員の皆様そして歴代の編集長の皆様に支えられ、8 年の歳月を経てここまでたどり着く事ができました。本当にありがとうございました。

私が担当して、途中一度だけ休刊してしまいました。あの時は忙しさから安易に「いや」と思ったものの、今更ながら「残念だったなあ」と思います。「続ける事が大事」と解っているのですが、以外と大変なんですよ。言葉では言えるけどそれを文章にして伝えるって事がなかなか・・・私自身、大の苦手なもので。

という訳で今回は歴代の編集長の皆さんに祝辞??を頂戴いたしました。(現編集長 黄金崎 亨)

「青年委員会だより」第 100 号刊行おめでとうございます。初代編集長(?)の工藤です。

「青年委員会だより」は私が平成 12 年 1 月に青年委員長を退任した際、それまでサポートしてくれたメンバーの皆さんに、これまでとは何か違った形でお返しできないかと思ったのがきっかけです。当時から建築士会に所属しながら、参加されていない方も多く、そういった方々に委員会活動を広く知っていただき、参加するきっかけになってくれればと始めた次第です。私のあとにも優秀な方々が引き継いでくださり、このたびの 100 号達成!とても嬉しく思っています。私自身は既に青年委員会を卒業し、委員会活動とも少し距離ができてしまいましたが、若手の皆さんの熱意は今でも「だより」を通して伝わってきます。これからも青年委員会の活動を陰ながら応援しております。

工藤 淳子

100 号刊行おめでとうございます。じゅんこさんからバトーンタッチ!!で私が編集担当させていただいたのは青年委員会の『韓国ピョンテク魅惑の旅』企画が始まる頃でしたので韓国ネタをシリーズで書かせていただきました。多くの人目にふれる以上は、正確な記事を書かなければと思い(気負い)、公立大の留学生に聞いてみたり、図書館へ行って調べたり、本からの引用も著作権がありますし、どこまで使ってよいものやら悩んでみたり。

その情熱を仕事へ活かしてはいかがか?と言われんばかりに今思えば結構チカラ入ってました。

楽しくもヘビーな作業でしたけれど、読者にはいかがでしたでしょうか。記事は一人でしょいこまないで、できれば細かく人に振るのが得策ですよ。

成田留美子

「青年委員会だより」100 号によせて
100 号到達おめでとうございます。

いい気になって、一昨年、短期間ですが編集長を務めました。振り返って、初代編集長・工藤淳子さんの長期間続いた根気には頭が下がる思いがします。一度、青年委員会で工藤さんから、「このまま「だより」が必要かどうか」、という話になったとき、「是非続けて欲しい」と要望した張本人として、感謝申し上げます。

ボクが入会した平成 6 年当時はまだ始まっておらず、いまとなっては発行開始のころの紙面は憶えておりませんが、ホームページに掲載しているバックナンバーの pdf ファイルを眺めると、「あー、このコラム憶えてる」とか、懐かしいですね。ホームページなどのネットの利用もいいですが、やはり会報紙には棄てきれない魅力があります。これからも末永く続いていくことを願います。

船水 草平

青年委員長より一言

青年委員会だよりも 100 号となりました。編集長には忙しい中のネタ探しや、編集作業をまかせきりで申し訳ありません。ごめんなさい。これからはネタ作りに協力できるよう頑張ります。会員の皆様も連絡事項等で青年委員会だよりを活用してみてはいかがでしょうかもっと面白いものが出来るとおもいます。

三上 浩昭

“青年委員会だより” 未来永劫続くのかな?? いや是非続けましょう! みんなの力で・・・

『青森のみどころ再発見』の企画準備着々と進行中! 青年委員の皆さん、定例会(CPD1 単位)に参加して、ご協力をお願いします。

青年委員会 7 月定例会 7 月 18 日(金) Fax 017-723-7105 まで

(出席 ・ 欠席) どちらかに○をつけてください

氏名

TEL

